

平成28年度 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議録

<司会>

失礼いたします。ただ今から福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議を開催させていただきます。私は企画課長の大橋と申します。本日の進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。今回の有識者会議につきましては、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。それでは早速ですが、お手元に配布させていただいております会議次第によりまして、進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。まず、開会にあたりまして、伊東副市長からごあいさつを申し上げます。

<伊東副市長>

皆さん、改めまして、おはようございます。昨年10月末に最終の有識者会議を開き、戦略を取りまとめていただきました。今回のフォローアップ会議で懐かしいお顔の皆さんとまた出会えたことを嬉しく思っております。昨年も申し上げましたけども、総合戦略を5年間にわたってやろうということで、四つのジャンルに、それぞれ最重点施策を位置付け、また重点施策を実施する中で、ご協力いただいています。

今日、お集まりいただきましたのは、ちょっと役所的かもしれませんが、国のほうでこの地方創生交付金をいただいております、それぞれに進捗状況の確認や成果を十分検証し、次年度の事業に反映させていく制度になっておりまして、今回の会議の開催意義となっています。

それから今回私ども福知山市の市長選でご存知のように、松山市長から大橋市長に代わられました。新しい市政がスタートした大橋市長も公約等でいろいろと打ち出されています。この地方創生については、大橋市長も基本的には、自身の思いに沿った内容であり、我々が皆さんと協力して作り上げたこの総合戦略について方向性は変わらないと考えておられます。そういう流れの中で引き続き皆様方には、しっかりとこの地方創生の総合戦略が着実に進むようにアドバイス・ご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

当然、計画ですので、それぞれの社会情勢が変わってくる可能性があります。それは、その時々で、チェックから入るいわゆる「CAPD サイクル」を回しながら総合戦略を実施していきたいと思っておりますので、時には「こういうテーマについて追加しようと思うけども、どうですか。」そのような場面も今後出てくるかとは思っています。どうかそういうときにはご協力いただきまして、この福知山市の総合戦略がより良いものに、着実に進められるよう、ご検討いただければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

<司会>

ありがとうございました。続きまして、「次第3 委員紹介・委嘱状交付」でございます。

お手元の名簿によりまして、誠に僭越でございますが、事務局からご紹介をさせていただきますので、よろしくお願い致します。まず、委員の皆様方でございます。名簿順にてご紹介します。

岸本道德様、細見秀樹様、芦田敦嗣様、高橋正英様、中本宏樹様、岡本嘉明様、中島俊則様、仲林清貴様、中尾誠二様、本日も欠席でございます。森本一成様、本日は欠席でございます。矢作弘様、安達敏泰様、麓泰紀様、高橋公一様、草木一之様、大西正樹様、山本敬二様、吉田美奈子様、高岡明子様、最後に伊東尚規副市長を含めた、以上 21 名の皆様でございます。

次に事務局でございます。名簿にありますとおり、事務局は市長公室企画課にて行います。出席者は、長坂勉市長公室長、私、大橋和也企画課長でございます。岸見貴志企画課市民協働係長、でございます。以上、委員の皆様方、並びに事務局のご紹介を終わらせていただきます。

オブザーバーとしまして、京都府総務部自治振興課参事村上章様、福知山市中小企業サポートセンターセンター長福田利治様、以上でございます。

続きまして、「委嘱状交付」でございます。市長より委員の皆様へ委嘱状が交付されています。時間の都合上、机にて交付させていただいておりますのでご確認ください。

それでは早速、お手元の資料に従いまして進めていきます。本日、お手元に配布させていただいております資料の確認をさせていただきます。また、郵送にて送付させていただいております資料もお手元にご用意ください。一つめ、本日の次第でございます。二つめ、委員名簿でございます。三つめ、有識者会議設置要綱でございます。四つめといたしまして、「地方創生加速化交付金活用事業」でございます。五つめといたしまして、「総合戦略と各種事業の関連（先行型交付金事業 H27 年度実施分）」というのでございます。あと郵送の資料につきましては、「アクションプラン重点事業の評価」でございます。最後に「未来創造 福知山」概要版（冊子）と「ふくちやま子育てするところなまち」でございます。お手元にご覧いただけますか？ないものがございましたら、お申し出いただきますようお願い致します。

それでは続きまして、「次第 4 平成 28 年度事業説明」に移らせていただきます。事務局から説明いたします。

<事務局>

失礼いたします。それでは、ホッチキス 2 点止めの「福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略 地方創生加速化交付金活用事業」、こちらの資料をお願いします。こちらの内容といたしましては、平成 28 年度これから実施していく事業の内容でございます。中ほど 1 ページめくっていただきますと、全部で 15 事業、掲げております。これを今年度しっかりやっていくという内容になっておりますので、右側、前倒し補正の経緯と目的というところを見ていただきますと、本日、副市長からの説明にもございましたように、平

成 27 年度については先行型交付金というのを活用しまして、事前郵送で皆様のほうにはお送りさせていただいた約 32 事業の評価をいただくというのが本日のメインです。

今年度の地方創生に係る事業の説明でございますが、平成 27 年度補正加速化交付金 [10/10]79,992 千円の交付金を活用した事業として 15 事業の概要というふうに見ていただけたらと思います。全部でNo.1 からNo.4 までそれぞれ事業計画を策定いたしまして、これによる事業を展開していくというようなことでございます。詳しい中身について説明を省かせていただきますが、それぞれ総合戦略に位置づけた事業ばかりでございますので、そのあたりは別紙の事業一覧、追加で本日お配りしました事業一覧でご確認いただければと思います。総合戦略と各種事業の関連、両面・裏表ありますが、裏面の総合戦略と各種事業の関連（加速化交付金事業 H28 年度実施分）というところで、こちらのほうが 1 から 15 の事業名、基本目標、どこに該当する事業なのかということ、基本目標 I がしごとをやるということですね。これがほとんどということで、観光業の振興であったり雇用の確保であったり、また大学関連で言えば人の流れをつくるということとか、移住・定住の促進では、これも人の流れをつくるということで、それぞれ総合戦略の 18 ページにそういった関連のところが載っていましたが、20・21 ページに続いて総合戦略の位置づけが載っているというようなことでございます。交付金を活用した全ての事業が総合戦略に基づいた事業となっています。またNo.1 から 4 につきましては福知山市単独で行う事業ではなくて、京都府北部 7 市町の連携の事業や、あとは京都府と連携した事業です。以上 28 年度に行う事業につきましては、後ほど資料の方でご確認いただければと思います。よろしくお願ひします。

<司会>

以上、説明でございました。続きまして、「次第5 平成 27 年度事業評価」に移らせていただきます。今回お集まりいただきました主目的がこちらでございます。「アクションプラン重点事業の評価」をご用意ください。

「アクションプラン重点事業の評価」A4 縦のこういったものでございます。お持ちでない方がございましたら、事務局のほうから配らさせていただきますので、よろしくお願ひ致します。

それでは順に始めさせていただきます。まず一つめでございます。No.1 の「地方版総合戦略及び地方人口ビジョン策定事業」でございます。これにつきまして、何かご意見ございますでしょうか。

順に進めさせていただきます。二つめ、「起業おうえん事業」でございます。これにつきまして、ご意見伺いたいと思います。どのようなことでも結構でございます。

<委員>

よろしいですか。セミナーを実施されていますけども、参加者のその後の動きについて

は把握されているのでしょうか。

<事務局>

こちらのほうは商工振興課の事業でして、その後、参加いただいた方の経過などはこちらのほうでは把握しておりませんので、必要であれば経過のほうを確認しましてお伝えしたいと思います。

<委員>

といいますのも、制度を利用して起業された方が結果として11社いらっしゃるって報告されていますけど、その中にはこの起業セミナーの受講者の方も当然入っておられると思いますが、その比率ってわかりますでしょうか。比率というか数字はわかりますでしょうか。確認されてなければ後日で結構です。これ大事なことです。それはしっかり把握されたほうがいいと思います。

<司会>

はい、また確認をさせていただいてご報告させていただきます。その他、何かご質問・ご意見ございますでしょうか。

<委員>

すみません。ちゃんと見てきたのですが、評価あり・なしって、評価するっていい事業だったというふうに評価するってということですか。あるいは評価しない、いい事業じゃなかったと評価する場合は、なしのほうにマルをして、あとで出してくれてということですか。

<事務局>

そうですね。評価につきましては目的が、達成できたかどうか、この事業が目標達成に寄与したかどうかといったところ、効果があったかなかったかというところ、各委員でご判断いただければと思います。

<委員>

効果がちゃんとした事業だったということなら、ありのほうにマルをしたらいいんですね。

<事務局>

そうですね。

<委員>

これだけだとわからないのもあったのですが、わからないところは空けておいていいんですか。

<事務局>

はい。よろしくお願いします。

<委員>

今のご質問に付け足しですが、これでいくと担当課の事業効果としては1・2・3とございますよね。1というのは効果があった、2は相当効果があった、3は非常に効果があったということで、1・2・3は効果があったというので判断したらいいんですね。記載なしが二つありますね。これを見ると、1番の項目を別にして30項目あります、全事業としては。これでいくと、3番の非常に効果があったが8件、2番の相当効果があったが7件、1番の効果があったが14件あるんですね。ほとんど効果があったことになっているんですね。これは市としては、実施主体者としては効果があったということで、今、選定されているわけですね。

<事務局>

その通りでございます。

予算を執行して事業を実施した評価となります。もちろん空いているところは22番「ひとり親世帯保護者支援事業」が空いているのと、もう一つ空いているのが「夜久野高原工芸村整備事業」、こちらは予算の執行がなかった、中身を見ていただいたら、そのような報告になっているかと思えます。その2事業についてですが予算はあったが執行しなかった、できなかったというような内容でございまして、それ以外のところで執行した事業につきましては一定の効果があったという担当課の判断がございまして。

<委員>

委員としてはそれをひとつ一つお聞きするわけにはいかないと思うんですけども、ここに記載されていることに対して質問していったら、我々の中での判断でということよろしいんですね。ある、なし、という。

<事務局>

そうです。その判断で。有識者の委員の皆さんの判断でお願いします。

<委員>

選択肢としては、良い・悪い、イエス・ノーで答えるんですね。担当課の評価っていう

のは0から3まであるんですけど、そういう判断でよろしいわけですね。

<事務局>

そうですね。国への報告書の様式が2択、ある・なしというような形の判断基準を示していますので、それに倣ったというようなことをございます。

<委員>

わかりました。

<司会>

起業おうえん事業につきましては、他に何かご質問・ご意見ございませんか。

<委員>

今、委員がおっしゃったように、私も以前、書類をいただきまして、集まる時間ありませんのと、まさに質問されたように、この事務局ですら、会議の場ですら、個々の、部署の事業内容・結果も聞いておりませんというようやったら、私ども評価できないと思うんです。やっぱり、明確に、この場で質問があった場合は、できうるような態勢の会議でない。今日も平成27年度の事業評価がメインの会議とおっしゃった以上は、もうちょっと準備段階ができていくほうがいいと思います。私も、以前書類もらった時に、わからないことがありましたんでね。今日は、十分質問せなあかんと思っていますが、最初からこんなんでは困ったなと思って。

<事務局>

はい。ご意見ありがとうございます。ご指摘の通りだと思います。この時期にこの会議を急遽持たせていただいた理由として、国から7月末までにこの事業評価をすべてしなさい、とこちらの事情ではありますが、一定の評価をここで終わらせるというようなことです。福知山市としては、9月の決算の時期に一定の評価を担当課のほうで十分した後に、本当はこういう会議を開かせていただきたかったのですが、そういった事情で、不十分な準備の中での今回の振り返り実施というような形になってしまったことは、事務局としてはお詫びしなければならないところです。担当課の方が現時点で前年度の事業の評価をした資料を作成しておりますので、それに基づきまして、今の段階での有識者の皆様のご意見をお伺いしたい。この会議はそういう形でご意見いただきたいと思っています。

<委員>

良いか悪いかという話でいきますと全て良い事業ばかりだと思って、みんな取り組んでやっているつもりなので、私は良いと思うんですけど、評価という話になると、目標の数

値が出てきて、結果が出ている、ということについて判断・議論すると思うんですよね。今、この目標の数値が、どういう根拠でこの目標の数値になったのか、そこの説明がほしいと思うんですよ。それに対して、結果が出ている。その目標の数値が上がったなと思えば、それに対して結果が出ているわけですから、十分だったかどうかというものが判断できる。目標の数値が5でこういう意味合いで5になりました。その成果が4でしたとなった時に、5という目標が妥当と思うんだったら4という成果については・・・、4では具合が悪いな、3にしましょうか。3であるならば、これは不十分だったね、という。5という目標の設定に対して、「そうおっしゃいますけど、やっぱり3ぐらいの目標が妥当だったんじゃないかな」という風に、皆さん委員が思ったとするならば、それに対して3の成果があるならば、これは十分だねというような評価をしたい。目標の数字が出ているんで、そここのところの説明はほしいと思っています。どういうところでこの目標になったのか。

<事務局>

目標につきましてはこの事業を実施・採択進めていこうとしているところで、実施主体である担当課のほうでそれぞれ目標を立てたので、目標の理念であるとかは、こちら事務局のほうで全体を取りまとめることはできますが、なかなか目標設定の数値の根拠というところが、この場で説明しにくいというところではあります。

総合戦略のアクションプランに一定の目標を掲げたというような事業の評価ということで、今回ご意見いただきたいと思います。本来でしたらこの場で担当課のほうから「こういう理念で目標を設定して、その達成具合をこういうふうに図りたい」ということが良かったのかもしれない。

<副市長>

すいません。事務局の不手際がありまして、委員さんのご指摘の通り、いわゆる KPI に対する事項が十分事務局のほうも検証できていないということで、誠に申し訳ございません。急遽こういった会議を開催させていただいたこと、事務局のほうから詳しい KPI に対する説明ができないこと、大変申し訳なく思っております。再度、KPI の関係につきましては、各課に照会をかけまして掌握次第、各委員さんにはご報告したいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

<委員>

例えば NO.2 のやつは、企業数が5件という目標ありますよね、11件きているわけですから、これは成果があったというわけですけど、5件の目標に対して、これだけ予算作って、例えば1件だったとしても、それでもこれだけみんな考えて予算つけて1件であっても成果があったとそれぞれの感じ方でいいわけですね。多数決で決めるわけでもなく。1件でもあれば、それは成果だと思ったなら「あり」でいいわけですね。それはみんなの

感覚に任せるということで。

<事務局>

その通りでございます。

<委員>

わかりました。

<委員>

今日集まりの皆様もすごく前向きの方々じゃないかなと思うんですけど、数字的な根拠、これをまさしく10あるものが20できた。これはかなりの成果だというふうに思いますが、もう少しやったそれぞれの部署の気持ちというものを皆さん、聞かせてほしいなあといいところがあるんじゃないかなと思います。数字的な根拠と実際の数字では言い表せないものがこの中にはある。10あるうちの5つできて、すごい成果じゃないか、将来性があるって、やってよかったなというものが、中にはあろうかと思えます。そういうところが見えてくれば良かった。できましたら担当部署が少しこの場に来てもらって説明してもらった方がいいなと、欲しいなと思った次第でございます。それともう一つ聞きたいのは、担当部署が数字的なもの、それぞれ直接扱っているのその成果は具体的にわかると思いますが、仮に我々が評価を「なし」と言ってマルをしまえば、国に対しての成果はどうなるのかというのが、ちょっと不安というか、そのへん何かあるんですかね。全然、皆さん、「いいよ」ということだったら「これ、いいよ」となるんですけど、「いやいや、理解できないな。これはなしにしたいな」と言ってなしばかりじゃ、その成果はどういうふうな結果に表れるのかな。「ないからなしだよ」と言って国のほうから言われちゃったら大変なことになると思うんで。そのへんは大事な会議じゃないかなと思いますから、ちょっと説明なりをいただいて、我々も「いいな。我々の考えたことがうまく進んでいるな」というような判断の場があったらいいかな。そのへんをご理解いただきたい。

<事務局>

ありがとうございます。まさに有識者会議の意見という事が、副市長の挨拶にもありました「CAPDのサイクルを回す」というところでもございますので、いただいた意見を事務局として担当課のほうに伝えまして、次年度の予算であったり事業の内容であったり、あるいは、総合戦略の見直しというのも当然かかってくる事項ではございますので、そういった意見をお聞きしたいと思っています。

<副市長>

すいません。この会議の持ち方の段取り、申し訳ないと思っています。去年、ずっと何

回か重ねてこの総合戦略をまとめていただいていたので、それぞれの委員さん方、それぞれに課題をしっかりと真剣に考えていただいて、より良い総合戦略を作ろうと、こういうふうに積み上げていただいたのも確かです。そういう意味で、ちょっと事務方が拙速すぎる部分もあると思うのですが、せっかくこれだけの委員さんのメンバーで構成しているので、先程もありましたように、評価するにしてもひとつ一つどこまでやれたか、どこまで汗かいたか、でもできなかったのか、思ったよりも先に進んだ、そのあたりの評価はしないと、結果として評価をしようという問いかけの責任を負って、時間を割いていただいた委員の方々に対して申し訳ないというふうに私も思います。とりあえず今日、こういう形になったんですけど、今いただいた意見、目標値の設定・それから目標に向けた各課の取り組みの状況を一度精査させていただきます。それでもう一度集まっていたくというのは厳しいかもしれませんが、ペーパーでまとめるなり、また個別にご説明に行くなりして、少し整理をさせていただきたいと思いますので、ご了承いただきたい。そういう意味では、拙速で、これだけ多くのメンバーの方がお集まりいただいて誠に申し訳ないですけども、評価についてはそういうかたちでやらしていただきたいなあというふうに思います。あとは、今日せっかく集まっていますので、今の我々のやっているようなこと、それ以外でも、何か福知山市の地方創生に「こうあったらいいんじゃないか」とか「こういうところが少し足りないよな」と、この総合戦略だけでなく結構ですので、少し、我々が今後、政策を進めていくについて、何かアドバイスなりご感想がいただければ非常にありがたいかなというふうに思いますので、評価については一度置かせていただきまして、そういうかたちでやらさせていただきます。せっかくですので、そのあたりの進め方についてのご意見等もいただければというふうに思います。

<司会>

今、副市長が申し上げたように事務局の準備不足で申し訳ありません。このアクションプラン重点事業検証シートがありますので、そちらの内容でも結構でございますので、意見を言っていて、またわからない点がありましたら、それもあわせて文章で回答させていただきます。評価いただくというふうに進めていきたいと思いますので、どなたからでも結構ですのでご意見いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、順番に、申し訳ありませんけど、岸本さんのほうから順番にご意見をよろしくお願ひします。

<岸本委員>

商工会議所青年部の岸本です。私は、この中の一つ使わせてもらって「販路開拓」というので、10万円いただいて香港に出店させてもらって、その後、物が売れた実績はないですが、現地で名刺交換をさせてもらいました。この事業は、両丹日日新聞で知りました。こういうのをもうちょっと上手に周知してくれたら、やってみようと思う人がもっと増え

と思います。去年もずっと言われていましたが、どういうふうに PR するかというのが課題かもしれません。私は事業を知ったので相談して利用することができ、この事業に関しては非常に良かったなとは思っています。他の事業については正直そこまで見てなかったんで、申し訳ないですけどあんまり良い意見はないんで、よろしくお願い致します。

<事務局>

あと30番の地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略というところが、福知山フロントのところかなと思いますが、そちらについていかがでしょうか。

<岸本委員>

私は、福知山フロントにも所属してまして、今進めさせてもらっているんですけど、(海外から)モニタリングで来てもらったりとか、今のところ会社の中に一人、もともと福知山の方で台湾で起業していて、台湾に特化したインバウンドをしていきたいということで進めてきているところです。なかなか結果として形には見えてないんですけど、少しずつ僕らもインバウンドという言葉をどんどん使ってやっていますし、冊子なんかを作ったところ、すごい評判がよかったようで、すぐになくなったというのは聞いております。あとなんかの誘致とかは、今、進めているところです。ゲストハウスに関しては私が運営する事になっておりまして、現在設計段階で8月の中ぐらいには全て終えまして、9月から着工となっております。以上です。

<司会>

ありがとうございました。それでは細見さんのほうからお願いします。

<細見委員>

失礼します。大変びりびりしたところに、私、遅参で入ってこさせていだいた者でござしまして、すごくおじけずいてしまっているような状況の中で、資料もあわせていただいておりますが、詳細まで理解には至ってないんですけども、特にDMOでしたかね。海の京都の関係については、先だって、私も夜久野のほうで温泉施設を管理させていただいている加減もあって、行って話を伺ったところで、すごく観光にとって有意義なものになるんじゃないかなと期待をしているところで、今から始まる状況だと思いますけども、できるだけ多くの関係者で進めていっていただきたいなあと思います。

それとスイーツの関係、こちらも観光振興になるかと思いますが、スイーツというと、福知山の水野君も含めて、明るくわくわくする事業と思っているんですけども、振り返ってみますと福知山のスイーツって本当にどこまでの強みを出せるのかなあって思います。事業の目的というか、どういった今後の話になってきますけど、展開が望めるのかなあという。

取り留めのない話ばかりになってしまいますけども、17番のスポーツ合宿補助事業について、実施させていただいているんですけども、よく聞くのは少し事業の内容がわかりにくいという声を聞きます。そのあたりが目標をもう少しのばせない原因にもなっているのかなというふうに思っております。全体的にもう少し、こちらにも書いてありますけど、周知の方法を工夫いただいて、新しい方法とか思うんですけども、引き続き100の努力が100になるべく近いかたちで現れたらと思います。最後まで取り留めのない話になってしまいましたけど、以上です。よろしくお願いいたします。

<司会>

ありがとうございました。次に芦田様、よろしくお願いいたします。

<芦田委員>

はい。私も資料を送っていただいて、こちらの事業に目を通させていただきました。感想としましては、全ての事業必要なことばかりだと思いますし、総合戦略という一つの計画の中で事業を進めているということは、大変素晴らしいことだなというふうに思っております。ただ中身を一つ一つ見ますと、もうちょっとこうしたほうがいいんじゃないかとか、もう少しこういうところに予算をつけたらいいとか、ここはもう必要ないんじゃないか、というのがたくさんあるんで、事業性の評価というのではなくて、そういう一つ一つの事業に対して、やり方とか仕組みを少し考えていくっていうようなかたちのほうが、いろんな意見が出るんじゃないかなというふうに思います。いろいろ難しい子育ての問題とか、介護の問題とかもあるんで、皆さんの生活に身近な話題も多いと思いますし、我々観光のほうでは、いろいろ市役所さんのほうで携わらせていただいておりますが、観光の方は海の京都の事業とか観光協会の事業なんかで、よくワークショップみたいなのを開いて、いろいろその事業に対する精査というのをしておりますんで、必要なものとかがだいぶ見えてきたというのがあって、先日もスポーツ振興課のほうにおうかがいさせていただいて、スポーツ観光のほうでも何かそういうふうなワークショップ的なものを開いて、事業の運用をもう少し柔軟にやっていくことはできないでしょうかということも話をさせていただきました。そういうかたちで、予算があって、ほんと貴重な予算を使う中で、いろいろそういう柔軟な会議やワークショップやセミナーを持っていただいて、それについて真剣に考えていく場を提供していただいたら、限りある予算をもう少し効率的に使っていくことができるんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

<司会>

ありがとうございました。次に高橋様、よろしくお願いいたします。

<高橋委員>

失礼いたします。それぞれの31事業、この数字を見せていただいたら、そこその成果はあったと私は判断しております。評価として数字というのはいろいろな意味合いがあるとは思いますが。

私は農業の関係でここに出席させていただいております。この中で直接関係するのは、4番の6次産業推進事業です。これについては、今後とも対応したいと思っておりますし、一つの積み重ねがやはり大事なあとと思っております。少子高齢化の中で行政と市民とが一つになって、行政サイドだけが取り組むのではなくて、市民を巻き込んだ形の事業展開というものを大いに期待したいと思っておりますのでよろしくお願いします。

<司会>

ありがとうございます。次に中本様よろしくお願い致します。

<中本委員>

私も今回の資料いただいて見させていただいたんですけど、私はどちらかというと目標と結果の数字だけにとらわれて見たわけではなくて、次年度・28年度以降の予定のところをよく見させていただきました。といいますのは、決して結果が目標に対して数字が少なかったとしても、これは単年度で終わる事業ではなくて次年度以降に続く事業ですので、28年度に対して、それに対して十分準備ができた、もしくはその為にいろんな調査できたというのはしっかり評価があるものだ、そういうふうに認識をしております。私、パワーオンネットの幹事をしておりまして、産・学・官・金融機関を含めた連携事業をしております。それは今回のこの資料の中には直接的には出てきていないですけど、それはパワーオンネットとして地域の交流を深めるということを含めて、いろいろ市の方にもご協力いただきながら進めていくところでございます。事業評価というのは、個別のところでご案内できればと思っております。企業側ができることというのは、企業が困っていることの一つに、人材不足になっている企業、私どもも含めてかなり多いと思っております。その中でふるさと就職おうえん事業があったり、ジョブパーク事業があったり、そういったものがあります。企業としてはしっかりと、例えばインターンシップを引き受けることによって、地元の企業にはどういったものがあるのかということを高校生・または大学生に対してしっかりとPRしていくことが、企業として重要なことですし、ジョブパーク事業・ふるさと就職おうえん事業に対して、企業としてもしっかりとPRができていければと思っております。以上です。

<司会>

ありがとうございます。続きまして岡本様よろしくお願い致します。

<岡本委員>

失礼します。何を言ったらいいかわからんのですが、一応、一通り目を通させていただきました。私は、今、夜久野地域で自治会長と連合自治会の副会長をしておりますが、市からいろんな配り物が毎週、相当量があります。その中で、色々意見がありました。市民の人にもう少し、こういう事業の周知徹底をしていくべきではないかと思えます。難しいことを書かなくても、「こういう事業がある」ということを羅列していただいて、関係のとこだけとっていただいて、「何かやろうかな」ということになるんじゃないかなと思います。今日、私、丹波漆の関係で来ておりますが、福知山市で伝統文化を守る会という会を去年の10月に立ち上げて、丹後の和紙と由良川・藍、丹波漆、その三つが伝統文化を守る会を作りましてやっておりますが、私の知り合いで東京の方なんです、女性の方が5名、福知山に来たいということで声がかかりまして、私たちが今、考えているのは「体験型の観光」といいますか、そういうことをやっていきたい。それと、土産物を作っていこう、と。三つがコラボした作品を作っていこうということで、いろいろ考えているんですが、その中で、人に来ていただかなくてはお金は落としてくれませんが、来ていただいてトイレだけして帰ってもらうようではしょうがないので、やはりお金を落としてもらうことを福知山はどう考えていくか、福知山の発展はそれしかないんじゃないかと、私はそう思ってます。観光についてももう少し、お城があったり、福知山のスイーツを見て、京都の高島屋に行って比較しますと、値段も違うんですが、比べ物にならないようなものなんで、やはりスイーツのまちであれば、もう少しいいものというか、見た目も味も…ただケーキがあるというだけなんで、インパクトがないんじゃないかなと思います。海の京都ということで、体験型の観光ということで丹波漆と丹後和紙で体験していただいて、夜久野で泊まっていたらいい。最初、福知山城を見て、夜久野に泊まっていたらいい、その後、体験をしていただいて、宮津で泊まっていたらいい、伊根に行って、出石に行って、豊岡に行って帰っていただきました。1人だいたい10万ちょっとくらいで2泊3日でやりましたが、来ていただいた人は大変喜んで、「また誘って行くので、また企画してください」と言って帰られました。今もまだ交際しております。そういうことで、体験型観光と、土産物を作るということと、おいしい、福知山へ行ったらこれが食えるというものを作っていく、ということに、やはり金儲けとしてはつきののではないかなと思っておりますので、その方向で私もやっていこうと考えております。

<司会>

ありがとうございました。中島様、よろしく申し上げます。

<中島委員>

今日、この会議に参加しまして、事務局の方はえらい真面目な方やと思えました。素直に、国のほうから7月末までに報告せよと言われてたんで急遽お世話になりました。準備ができませんでした、と素直な、真面目な方やと思えます。けど、それだけで終わったらいい

かんと思いますので、事業としては一応3月で終わったんで、もう4ヶ月くらいなるんでね。そうなると、この結果を検証しないとならないので、こういった場合の質問もちゃんとやらないかん。そういった中においても素直におっしゃったので、伊東副市長さんが「ちょっと置いといて」と。「参加者の意見をお聞きしたい」とあったのでお話しします。

岡本さんが例をあげて話してくれました。私どもは農業関係の分野をやらせてもらっています。昨日もある会合をもっておりまして、いろんなところからの情報とかあり、いろんな冊子や文献があり、学識経験者がいらっしゃいますけど、その理論をおっしゃいますけども、まずは行政さんの場合は一般論で申し訳ないですけど、過去から事例があった場合は予算も付けやすいし、世間一般的にそういう流れがあったほうが予算を付けやすい、と。ところが、突発的な、「お前、何を考えとるんや」というようなアイデアの時には、なかなか前例がないからつけにくい、というようなことがあるようです。福井県の知事さんの場合はちょっと違うらしいです。「突発でもかまわない」それは市長さんなり知事さんが納得すれば予算つける。「責任は私がつとる」というような態度らしいです。私も過去に福井県とはお付き合いがあったんですけど、最近行っておりませんので、明快な答えかどうかわかりません。東京のほうから、南大東島のほうから移り住みたいという方の話で、やっぱり地元で、工業であれ商業であれ農業であれ、何か求めてこられた時に、地元でそういう人がおるかおらんかでは全然違うと思うんです。この事業トータルしたらなんぼになりますか？事務局さん、この事業トータルしたら？

<事務局>

8500万くらいです。

<中島委員>

でしょう、年間、27年度でね。その結果たるもの、やっぱりきっちりせなあかんと思うんで、そんな時にも私たちはいろいろなことを提案していきたいと思います。でもその時に、突発的なことでおかしいなと思わないでください。聞く耳だけは持ってほしいなと思います。もう一点だけですけども、行政さんは地域振興とかいろいろされますけども、地域振興ということにつきましては予算が付けやすい。広く一般的に、全般的にあるような事業でしたら、事業は抵抗なく付けやすい。ただ特化して、「そこだけ頑張ってみい、いっぺん」というような時には付きにくいなと思います。今、それがないと、私、ダメだと思うんです。ある意味からすると突飛もない話なんで、特化したことでもいいから、それでやらしてみる。ちょっとは目立ったほうがいいなと思う。特に農業関係はそういう傾向が強いと思うので。失礼します。

<司会>

ありがとうございました。続きまして仲林様、よろしくをお願いします。

<仲林委員>

こんにちは。私、分野としては産業という分野になるんですが、この会議には私、初めて参加させていただいて、前任のものが退職した関係で参加させていただきます。

送っていただいた資料を事前に見させていただいて、感じたことを2・3言わせていただくんですが、私は社会福祉法人ふくちやま福祉会の障害者福祉の事業を展開する法人です。福知山に一般社団法人化させた福知山民間社会施設連絡協議会という組織がありまして、高齢者施設も含めて全部で11法人、施設数にすれば50くらいになって、そこで働いている職員・労働者の数というのも相当な数になるかなと思っているわけで、それも一つの産業分野の関係かなと思っています。小さな町に行けば、そこに特別養護老人ホームを作るのか障害者施設を作って、そこで働く場を作って人口減少の歯止めをかけるってことを本気で取り組んでいる小さな町や村っていうのが、これまでクローズアップされてきているので、そういった意味でも福知山市内にそういう産業の基盤を広げていく、受け皿を作っていくという意味では、当然、本来的な障害者福祉事業とか高齢者福祉事業も大切なのですが、そういうことにともなって人口の歯止めにつながっていくっていう視点って大事かなと思います。

その観点で、残念ながら3、4年前からひどいことになっておりまして、法人では施設を整備したけれども、国が定める人員を確保できないので、その施設を使った事業がスタートできない、というようなことが起こっているんですね。法人にしても結局、事業が始められないことによる収入減とかいうこともあって、本当に人の確保っていうのは課題になっている中で、ここにも21番とか9番で、いわゆる介護職員の確保というふうに事業を進めていただいているのですが、本当にまだまだ、成果は若干あるものの、もっと飛躍的にやらないと現場は大変な時代になってきているということを改めて痛感しているところで、今後の計画にもそういったものを課していただきたいなということと、他の法人さんでも話を聞くんですが、Uターンですね、福知山の高校を卒業して、京阪神ないしは、いわゆる都会の福祉系の大学に進学している子どもが帰ってこないんですね。実は私の子もそうなんですけど。私は逆に大阪で生まれて、Iターンで三十数年前に福知山に来たんで、なかなか都会に行って人に酔うくらいになってしまったんですが、子どもたちが帰ってこないっていうのは本当に現実の問題なんで。そういうふうな事を考えながら、どうしたらいいのかと言ったら、結果論なんですけど、Iターンが私たちの法人で4人、青年が就労していただいたんです。それは京都の就職フェアとかいろんなことで努力していく中で、都会に住んでいただけ自然豊かな福知山で暮らしたいという人が4人働いていただいた。来年には1名、大学を卒業して来るという、大阪の堺市の女性なんですけど、そんなふうには話があって、実は福祉サイドでもIターン・Uターンして福祉分野で働く人に対して、家賃補助が3年をめぐりにさせていただいて、非常に助かっているんです。私の法人の職員もその補助を利用して助かっているんですが、もうすぐその制度そのものがなくなりそうだと

いうことを聞いておりました、そうこうして、私も「こんな制度があるのか」と思って、初めて知ったんですけど「いなか暮らし大作戦」、地域振興部まちづくり推進課がやってる、12番ですね。こういう制度もあったのかなと、初めて聞きまして、IターンでもUターンでも、とにかく人材確保していきたい。そういったことがないと、ありとあらゆる手段を講じて人材の確保に繋げていくには、こういった縦割りではない施策というのが必要なのかなと思います。宣伝ではないんですけど、ここの1階の「森カフェ」は、私どもの法人が委託してやっているんですが、そこの責任者は長野県出身で、横浜で管理栄養士の資格を取って、私どもの法人に2年前に就職した女性が現場責任をやっておりますんで、また励ましにお客さんとして行っていただけたらな、と。もう一つ宣伝ばかりで。私、実は天津のあまづキッチンの方の管理者も兼ねてやっております。そういう意味では、いろんなまちづくりってということと、障害者の働く場づくりを保障ということ、本当にいろんな意味で、いろんな分野でつなげていけるということが、この中に盛り込まれていってるとは思えないかなと思いつつも読ませていただいた次第です。取り留めのない話ですが、以上です。

<司会>

ありがとうございました。次、矢作様お願いします。

<矢作委員>

人口が減っていく時代で地方財政も厳しくなっているわけですから、自治体の取り組みがあれもこれもということじゃなく、ある程度焦点を絞らなければいけないのと、やっぱり隣の市と競争するんじゃなくてどう連携していくのかがこれからの焦点だと思います。

そういう意味で、31の事業をざっと見たかぎり、6番や7番の海の京都博、あるいは29番のKTRあたりが地域との連携を考えられているのかなということが見受けられましたけど、もう少し何か、京都北部7市町の間連携プログラムみたいなのが欲しいなというのが印象でした。30万都市圏で連携していくプログラム、自分のところだけで頑張るということではなくて、連携のプログラムが欲しいと思いました。30万・7市町村の中で福知山というのは中心都市としてどういうふう頑張ってきたかは総合計画のほうでも述べられていると思いますけども、なかなかこのプロジェクトを見ていて、そういう気概があまり感じられなくて、31番の福知山公立大学は北部唯一の大学で、この分野でリーダーシップを発揮しようということがあるのかなと思いますが、全体として中心都市として頑張っていくというような、気概が、ちょっと見られないなという感じが致しました。

特に28番のところシティプロモーションとあげていますが、これ見て・・・、今日は企画課の主催ですよ、この会議ね。自己評価が1になっているから厳しい評価をされてますが、この自己評価のもと、たぶん20件応募して4件しか来なかったから1になっているんだと思いますが、このシティプロモーションの企画の内容を見ても、今お話ししたよう

に 30 万都市圏で福知山がリーダーシップを発揮していくんだよという戦略的ビジョンを募集しているというような心意気があまり伝わってこないですけども、ごく普通の福知山の PR プロモーション映像の募集という感じかな、とあってちょっと残念かなという気がしました。以上です。

<司会>

ありがとうございました。次、安達様、よろしくお願いします。

<安達委員>

金融機関という立場で参加させていただいていますけど、今回 2 時間という限定された中での議論をする、時間的な余裕が最初からなかったなあというのが第一印象です。31 の事業についての評価は私もしてきたんですけど、コメントも全部書きました。

補正予算の金額も 8000 万という数字を掲げて、これから事業が進んでいくという中で、私が一番思っているのは、今も矢作先生が言われましたけど、やっぱり隣町・7 市町の連携を、まず自分のところ福知山だけで物事を考えるような事業ではなしに、広がりのある、繋がりのある事業をやっていく必要があるんじゃないかと思っています。それと予算をそれぞれ組む中で、各課の方がいろんな地域創生の事業をするためにどういうことが必要かという観点からいろんな事業の取り組みをされた経過が、こういうような 27 年度の事業になっていると思うんですけど、そこの中でも、福知山市の課の中でも連携が図れているのかなというところが、結果の中で見えない分があるかなと思っています。予算がついたから、予算を消化するのではなくて、これをするからこの予算が必要なんやという物事の考え方が予算の仕組みづくりを検討していかないと、こういう事業については成果が出て、いわゆる過程が大事な部分もありますんで、そこらへんの方向性を考えていただいたらありがたいなと思っています。

私が今回の有識者会議の委員さんの、前回の方がほとんど、いわゆる PLAN・DO して、CHECK して、ACTION せんなんということで、このメンバーの方、27 年度に策定についてのアクションプラン等の検討したメンバーなんですけど、女性の方がもっと入っていただきたいというのが私の本当の気持ちです。それとオブザーバーに府の村上さんとセンター長の福田さんが見えていますけど、もっと、この会議でもいろんな意見を聞きたいなという方があれば、議会ではないんですけど、そういう意見の交換ができるような仕組みづくりも、有識者会議の中の進め方ではひとつ、あってもいいかなと思います。それと、この委員の皆さんが欠席の場合、その関係の方が代理出席をしていただいても、意見交換するのでもいいかなと、広がりやまたできるかなと思っています。私がもし、欠席するのであれば、私の代わりに京都北都信用金庫の職員が、本部の職員が席に座って意見交換するのも、また一つの場としてはいいかなと思っていますので、またそういうことが可能とすれば、それも検討していただきたいなと思っています。とりあえず私は、前向きに検

討していきたいとか、前向きにサポートしていきたいという立場ですので、結果について意見を言うのは誰でも言えると思うんで、そうではなしに、どうやったらこの創生事業の5年間でどのような方向が見えるということで、こうやっていこう、こうやっていこう、というポジティブな意見の交換の場所にしたいなと私は思っています。よろしくお祈いします。

<司会>

ありがとうございます。次、麓様、よろしくお願いします。

<麓委員>

金融の麓です。この31事業、本当に全部必要ないいい事業だと思っております。ただ、一定の成果について評価をしないとイケないということなんで、やっぱり基本は目標と結果に対してどうやったんやという認識は必要だと思います。その中で予算が足りなかったからダメだったのか、あるいはもともとニーズがなかったから、これ以上投資しても無駄だという判断は必要だと思うんですけども、その中で結果でなくても28年度の事業まで続けなければいけないというのは絶対あると思うんですよ。この31事業が28年度に15事業に変わっています。単純に引き算すると16事業が消えてしまっているわけですけども、この31事業の内、「これは28年度のこの事業に引継ぎされているよね」「31事業の内この事業は本当は必要だけれども、28年度の事業の15事業には入ってないね、これは続けなければならないんじゃないか」という議論は必要だと思うんですよ。具体的に申し上げますと、30番の地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略、福知山フロントという会社ができて、まちなかを活性化させようというプロジェクトでありました。これは私、本当に必要なことで、絶対しなければいけないなと思っているんですけど、ただこの補助金、27年度の評価でいくと、600万だけで完結する事業ではないということがありまして、このほかに…融資が絡む話が当然出てくるわけですよ。補助金は補助金で使い切って、補助金出るまでのつなぎ、これは簡単な話ですけども、リスクをとって融資していかなければならない。このビジネスでもって、どうやって利益をとって返済していくんだって話がようやくこれから、プロジェクト・事業計画が立ち上がる時に、この28年度に、もうこの事業は終わります、ありませんというのは、さびしいと思いますし、まちを活性化する中で1件だけこういうのを立ち上げて意味がないわけで、2件目3件目4件目と同じようにやっていかなければ効果が出ない事業があると思うんですよ。それを見極めて28年度の事業を継続していくんだという議論は必要だと思います。28年度のシティプロモーション事業にしたって、6万しか予算とっていませんけども、本来ひよっとしたら一般の市民公募じゃなくって、どんとお金を出してプロの人に立派なものを作っていただいて、そして全国の人に福知山はこんなんだ、と発信するほうが、遠回りですけど、コストはかかりますけど大変成果が上がったかもしれない、というような反省や議論もやっていく必要があるんじゃない

ないかなと思います。この 28 番の事業も、これは絶対必要な事業だと思いますので、そういう方法の反省を踏まえて今後の参考にしてください。以上です。

<司会>

ありがとうございました。続きまして、高橋様、よろしく申し上げます。

<高橋委員>

はい。日本政策金融公庫の高橋と申します。今日は、初めて参加をさせていただきいただきました。今、いろいろなご説明を拝聴させていただきまして、各事業に関しましては、KPI が達成しているものと、それからまだ道半ばのものとそれぞれあるかと思えますけども、それぞれの事業に関しましては、まだ今後進めていく中で、まだまだやらなきゃいけないことがあるんじゃないかなというふうに、私としては今日参加した中では感じております。

私ども日本政策金融公庫は、福知山市が作られたこの総合戦略に対して、各事業について、私どものほうでできることはないか、ということで一緒に協力させていただきたいと思っているところございまして、今日、最初冒頭のところで、企業応援事業というところで議論からスタートする中で、今日の議論がスタートしたと思うんですけど、私どものほうでも企業・創業に関する支援というのは一番メインのメニューになっておりまして、そのなかでいろいろ相談会やセミナーとかについてもいろいろ参加をする中で支援をさせていただいているところであります。

実際に私どもの資金も利用いただきながら、創業を昨年度していただいたところも何件もありましたし、私どものほうではそういうようなご相談があった場合には、福知山市の企業応援の助成金もご紹介させていただきながら、少しでもこの事業のほうに貢献できるように持ってきているところでございます。また、最後に公立大学のところがございましたけども、公立大学も、私、今週、訪問いたしまして、事業資金のほかに教育ローンも取り扱っておりまして、教育ローンでの連携ということも話をさせていただきました。公立化になったことで、学費がだいぶ軽減されたことで、広くお客様に利用が広がりました。福知山市近辺だけでなく全国から学生さんが来るようになりました、というお話もうかがいまして、そういう中でも教育費というのは家計の中でも負担比率が高い状況で、なかなか経済的な理由で進学ができないというご家庭の方もいらっしゃるというのが現状でございますので、そういうところで私どものほうは金融の面でサポートしながら、ぜひ公立大学の KPI の目標達成には少しでもお役立ちしたいと考えているところでございます。今日、冒頭のところで皆様から、他の委員様から話が出た中で、こういう会議の中でいろいろな意見が出るのも、いろいろ市の中のそれぞれの担当課の皆様にも直接届けるというか聞いていただくという場も、聞く会というのも非常に大切ではないかと、重要ではないかと思っております。そういう意味では、こういう中に担当課の皆様も参加いただくということ

も検討いただくのがいいんじゃないかと、今日は思いました。私のほうは、以上でございます。

<司会>

ありがとうございました。続きましては、草木様、よろしくお願いします。

<草木委員>

失礼します。ハローワークの草木と申します。この4月に赴任いたしました。よろしくお願い致します。一つは、私も冒頭、いくつかの委員さんからもありましたけども、担当課の方の話が聞きたかった、ということ。特に商工振興課がたくさん事業を持っておられますし、観光振興課におきましては、全ての項目が非常に効果があったというようなことで評価されています。そのあたりもちょっと聞きたかったし、特にハローワークのほうは商工振興課と付き合いがあるんですけども、全て2番で入れてはるんで、なんで3じゃないやつがあるのかなと思いつつながら読ませていただいたというような現状でございます。ハローワークといたしましても、ふるさと就職おうえん事業というあたりはですね、頑張っただけ協力させていただいているという状況でございます。今年度におきましても、平成29年3月卒の高校卒業者ですけど、前年度よりも卒業者数は減っているんですけども、就職希望者は若干増えております。というようなこともございまして、今年度におきましても福知山のハローワーク・綾部のハローワーク、それと京都府と福知山市、学校と、4者連名で17団体の主要団体のほうをまわらせていただきまして、求人要請をさせていただいて、なんとか地元就職をということでまわってまいりました。幸いにも、昨年よりも求人のほうをいただいております。就職希望する高校生が、希望する就職先に、できれば地元で、と。昨年は結果的には地元で就職されたというのは50%ちょっと超えたくらいでございます。あとは地元というか、福知山管内ではなく、京都府、あるいは大阪府・兵庫に就職していただいたということで、内定のほうも99%ということで、3人ほど内定者で終わったんですけど、その3人もこの4月以降、ご自身で就職された方もいらっしゃるし、ハローワークからも就職されているということで、引き続きこの29年3月、今まさに、保護者の方と先生と生徒との3者の相談で、9月16日から高校の面接のほう、就職の試験の方が始まりますので、そのあたりで引き続き公平な選考が行われますように、引き続きハローワークとしても応援していきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいなと思います。あと、ハローワークのほうでは最近では定着指導というところにも力を入れておまして、なんとか就職された方が定年まで会社で定着して働いていただけますような、そういう支援なんかも取り揃えておりますので、ということをご紹介しておきたいと思っております。よろしくお願いします。

<司会>

ありがとうございました。次に大西様、よろしく申し上げます。

<大西委員>

はい、労働のほうから出ております、福知山地区労働者福祉協議会の大西でございます。労働ということでございますので、その点に絞りまして感想といいますか、お話をさせていただきたいと思っておりますけども、今、ハローワークさんからもありましたけども、就職については成果が出ていると思っておりますけども、その雇用の質も重要になってくると思っております。

求人があったから、就職できたからよかったとなるんじゃないかと、中身の部分にも目を向けていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。あと、事業の11番ですね、ふるさと就職おうえん事業、大変ご苦労いただいていると思っております。ここの一番下のところの5番、平成28年度以降の予定というところにありますけども、「福知山市内に通う学生が地元で就職してもらえるような施策の事業化」と述べられていますけども、これも先ほどから出ておるように、福知山市内の人から福知山に就職ということは別に限定しなくてもいいんじゃないかなというふうに思います。新たな事業所ということでいいますと、福知山よりも綾部のほうが大きな工場が開設されていたり、雇用の面ではそちらのほうが大きな雇用を生んでいる。ただその住環境という部分で、綾部に住まわずに福知山に住むという方も大勢おられると聞いておりますから、近隣の5市町と連携を図りながら、そういうことについても調整をして進めればというふうに思います。以上です。

<司会>

ありがとうございました。次、山本様、よろしく申し上げます。

<山本委員>

ちょっとお話をさせていただきます。最初に、私のほうが質問をさせていただいて、そのあと評価一覧表について質問させていただいて、それがきっかけで企画課が、事務局が予定されていた進め方がずいぶん変わったしまったことということで、そういう意味ではお詫びしたいと思っておりますけども、今日、岸本さんから始まりまして、順番にお話をさせていただいている、これがすごくいいことかなと思っております。そういう点でいきますと、総合戦略、昨年10月に策定されたわけですけど、これについては当然、数値目標のつとりますし、そういう中でいうとこれに携わった我々委員も責任があると思っております。そういう責任がある考えのものに皆さんが質問とか感想を述べられていると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

そういう点でいきますと、私は、さっき中島さんがおっしゃいました、真面目であるというお話だったんですけども、それにプラス、私は皆さん正直だなあと思っております。事務局はですね。チェック、7月31日までに出さなきゃいけないということなのに今日は週末ですよ。週末で月末なので、31日、日曜日ですよ。だから、皆さんどうされるの

かなと、それが心配になっておりまして、うまくまとめられると思いますけども、週明け8月1日は月曜日でございます。我々が預かりました31事業についてのコメントということなんですけど、これは各委員・皆さんがおっしゃいましたけど、私はどれ一つとして無駄なものはないと思っておりますし、その中で数値目標というのはあくまでも目標であって、これをいわゆる達成しないからそれはダメだったということですね。それはないんじゃないかな。さっき誰かがおっしゃっていましたが、例えばそれがマイナスであっても1よりは2のほうが多いわけですので、そのへんは自信を持ってやっていただけたらありがたいかな。繰り返しますけども、31事業、どれ一つとして無駄なものはありません。その中でいきますと、31事業あげられて、私、コメントずっと書いてきたんですけども、どれ一つとして、一つ一つ申し上げる時間はありませんので、会議なのでピックアップして申し上げますと、例えば4番の6次産業の推進ということで、高橋さんは農業に携わっておられますので、農業の視点からお話されたと思うんですけど、これは農業だけではなくに1次・2次・3次と足していきますと、これは産業全体の話になってくると思いますので、あくまでも福知山市は農業の振興というのもすごく大切だとは思いますが、横断的なつながりを持ちながらつめていかれてはどうかと考えております。それから5番・6番・7番ですね。どちらかという観光産業に属するものだと思いますので、その中で先、どなたかもおっしゃっていましたが、DMO、いわゆる観光をどういうふうに盛り上げていこうかと、DMOの取り組みを、それ以外の組織と連携されてやっていかれているということなんで、これは注目して見ていきたいと考えております。海の京都という、私はパンフレットでしか知りませんが、あれを見ると「京都にはこんな面白い取り組み、面白い場所があるんだな」ということを発見させていただきました。そういう点で分野が私一人だけ「外部」になっているんですね。外部の人間は好きなこと言っていると思っておりますけども、福知山のことに触れるのは来る時しか触れることができませんので、なかなか理解する事は難しいかなと思っております。それから15番の佐藤 太清さんの記念美術館の特別展ということで、いわゆる佐藤 太清さんが福知山に対してどれだけ貢献されているのか、ということをおはわかっておりません。日本画の大家であることは確かだと思うんですけどもね。こういうことを全国各地を見ても、あらゆるところでやっておられるんですね。そのまちの偉大な画家であるとかそういったことで。つい最近、先週、香川県の丸亀市に行ってきました、JR丸亀駅の前にですね、猪熊弦一郎の記念美術館があるんですね。そこに初めて入ったんです。びっくりしたのが、絵になんのバリアもはられてないんです、柵もないんです。触ろうと思ったら触れるんですね、触ることはダメですけども。そういうバリア・柵がですね、観客と作品を隔てているのを感じさせないような、そういう美術館がある。それが広く市民に開放されている。もちろん、市民の方は65歳以上の方だったんですけど、行った時も夏休みには入ってございましたけども、中学生が社会見学か何かで来られて、学芸員の方が説明されておりました。こういう取り組みを福知山でもされたほうが良いと思いますね。お城の隣にありますし。ただ定休日が多い

ですね。私に来るたびに定休日に当たってしまうんですね。定休日に来ているわけでは
ありませんけども、実は入ったことはありません。そういう点では今後注目しております。
その下の16番のまち歩きということでございますけども、まち歩きはすごく大事なことで、
どこでされたかという表記がなかったんですけど、たぶん中心部でされたと思うんですけ
ど、中心市街地の中の商店街ですね。これは新聞等で拝見したんですけど、岸本さんが関
係されている福知山フロントですか、これはまた別のまちづくり会社だと思うんですけど、
そこがゲストハウスを作ったり、いろんな取り組みということで注目したいと思いますし、
すごく行政のバックアップが必要だと思いますので、よろしくお願ひしたいと、これ企画
課だけしかいらっしやいませんけども、商工振興課にお伝えいただきたいと思います。19
番のSEA TO SUMMIT、これはスポーツイベントとしては面白い試みだと思うんです
けども、今、全国各地でトライアスロンの大会がされているわけですね。私が関係して
おります、近江八幡の、この6月に第2回目のトライアスロン大会をやりまして、すごく雨
が降ったんですけど、選手たちは雨のほうが走りやすいということだったんですね。どう
してそういうことかといいますと、いわゆる経済効果が大きいんですね。それと市民が、
自分のまちに、名だたる選手が来てくれている、もちろん無名の方のほうが圧倒的に多か
ったわけですね。そういう面で雨の中にもかかわらずイベントを盛り上げるという意味で
は、選手と参加者・関係者、それから観客。これすごく大事なことでして、SEA TO
SUMMITというのは、べつに福知山だけではなしに、関連するこの周辺の市町村を含めて
やっぺいこうということで注目をしたいと思います。あと22番・23番のひとり親世帯・楽
しい子育て、前の会議の時に申し上げたと思いますけど、福知山市は全国的にも有名な子
育ての優良地区であると聞いておりますので、是非こういう方たち、いわゆる次代の福知
山を担っていく子ども達をうまく育成していくというのは大事だと思いますので、そうい
うことをひきつけて県外から府外から市外から人が押し寄せる、定住化することで安心を
得たいという方もいらっしやると思いますので、是非しっかりとやっぺいいただきたいと思
います。28番のシティプロモーションですね、私も4作品を委員の皆さんと拝見しまし
たけど、全くダメだったですね。やっぺいさっき言われたように、どっかプロにお願ひして
やることも大事かなと思いますけど、その時に思ったのがキーワードがなかったんじやな
いかな？オーダーする時に。それを感じました。あと29番のKTRの話ですけども、これ
もすごく新しい電車ができて、私も拝見をしましたが、もっともっと電車を利用した
イベントをするべきじゃないかと思うんです。そういう点では、滋賀県の近江鉄道ばかり
じゃないですけど、私が今日来る時利用しました神戸電鉄でもそうなんですけど、始点駅
から終点駅まで往復して、そこでビールを、納涼大会をするんです。虫の声を聞く、いろ
んなことができるわけですね。福知山にとってはスイーツが一つの売り物になると思うの
で、例えば電車の中でスイーツ女子バルみたいなね、やっぺいいくと。そういうものを考え
ていただけたらと思います。ですから今日配られた28年度の15の加速化事業ですか。加
速化事業が15しかない。今、我々が見させていただいた31事業から減らされているとい

うふうに考えますね。優先順位があると思いますので、そういう点でいうと 27 年度から 28 年度でもれた事業もこれからも続けていかれると思いますので、是非、しっかりと続けていっていただけたらなと考えております。以上でございます。

<司会>

ありがとうございました。吉田様、よろしくお願い致します。

<吉田委員>

お会いしないうちに私、実は結婚しまして、子どもが今お腹にいまして 6 ヶ月になっていまして、そんな変化もありながら、また会議への臨み方も変わってくるんですけども、この資料を見させていただいて、全体的にお金の額が、これが必要な理由がそもそもわからないというのがあります。どれくらいの事業に対して、どれくらいのお金が必要なのかというのが、一般市民の感覚からすると全然わからないんですね。だから、好きな人に頼めばタダでもやってくれるよ、というようなことを、わざわざこの額を使ってやるのかということを感じたりするので、それを検討するっていうところっていうのは、この事業にはこの額が必要だっていう理由とかも教えていただけると参考になるな一、と。新しい事業を提案するにしても、これはこのくらいお金がいるんで、たぶん、実施者の方だとわかると思うんですけど、普通にバイトぐらいしかしたことがないような人が、私も働いたことありますけど、NPO とアルバイトと、すごくあんまり賃金が高いほうではないところでよく働いていたので、教えていただくとありがたいなと思います。全体的に見させていただいて、よくわからない言葉が多すぎたのでそれについて聞けるのかなと思っていたんですね、今日は。そこの点が聞けなかったのは残念ですけど、その中でも、これは友達がこの事業利用してやっているわ、とか、あと、これ必要だなというのが…8 ありまして、その中でだいぶ皆さんと、今までしゃべってこられた皆さんと重なっているものもあったので…。

最初の 4 番の 6 次産業推進事業のところでは、物が売れているところがどうなっているかというのを実際に知るということは大事だと思うので、福知山を飛び出して物を売り出しに行くっていうのは、それだけの価値があるのかなと思います。ただやっぱりどれくらいのお金を使ってこの事業としてというのに当てはまるのかわからないので、そのへんは検討がいるかなと思います。16 番のまち歩き促進モデル事業、私、これ見てビックリしたんですけど、福知山駅の周辺で無料駐車場ってどこがあるんですかね。JR 福知山駅に付いているのと京都…結婚して京都にも拠点ができたくてよく京都にも行っているんですけど、コーナンの駐車場が一番安いから、私はいつもそこに止めているんですけど、無料の駐車場はどこにあるんですかね。教えて欲しいと思って。

<事務局>

これ、無料の駐車場というのは福知山城のゆらのガーデンですね。

<吉田委員>

やっぱり。福知山駅の周辺にあると嬉しいなとよく思います。事業に関係あるのかわからないですけど。

<事務局>

それから広小路の買物事業として、無償で駐車場が借りられるんです。

<吉田委員>

新町商店街以外でですか？立体駐車場じゃなくて？

<事務局>

立体駐車場を利用される方で、最初の何時間は・・・

<吉田委員>

そうですね。結構、車社会なんで福知山は。その駐車場の整備は、イベントごとにするにしてもそうですけど、まず駐車場どうするかって、最初に話し合うことでもあるので、そこを結構手をつないでしっかりやると、人が、交流人口とかは生まれやすいんだろうなというのも、端的に思います。興味がなくても、そこに車が止められたらちょっとのぞき見ようかということができるので、結構重点的にやったらいいのかなと思いました。

後ろ側でいくと、20・21・22・25・27・31、それはありにマルしているんですけど、この有識者会議の話で一番関係が、皆さんに関係があるのが20番かなって、私は思っていて、違うのかもしれないですけど、一回見学に来られましたよね。学生の方が、この事業というか・・・有識者会議。あの学生は違うんですか。この事業ですよ。あれ、かなり重要なことだと思って、でも、当日されていた事はしおりを配ったりとか、基本的にはいるってことだったんですけど、そうじゃなくて、会議に入ってしまったりとか、日頃どういう考えを持っているのかとか、もっと考えさせるような事業の内容にできたら「福知山ですごく疲れた」という経験ができるのかなと思って、彼らは一見ネガティブのようですが、相手にしてもらえたっていう記憶はすごく大事なあとと思うので、学生を招いて何かするんだったら楽しませるだけではなくて、ちゃんと相手にするというか、ちゃんと向き合うというのを時間として設けるといいのかなと思いました。

21番のことは、私、介護とか福祉とかすごくまちづくりとか、普通に生きている状態でも応用できる考え方がすごく詰まった分野だと思っていて、本とか読んでいても面白いなと思うのは、その本が多いんですけど、第一線とか最先端・・・というのも人によるんですけど、この人が言っていることは面白いなという介護をやっている方とか研究されてる方

とか実践される方の話を聞きにいこうと思ったら外に出ないといけないっていうのが、私はちょっとネックだなと思っていて、今、本とかでも、「この人が言っていることすごく興味がある」と思っても、それは外の人の本だったりするんですよね。だから学びに行く機会が福知山の中にないと働いていても情報を最新にすることとかできないので、介護の現場の技術を教えるっていうのと同じくらい、考え方とか介護とか福祉の分野にどう取り組むのかという姿勢とか学ぶ勉強会があると、私は行きたいなと思います。興味がある人間としては余計そうですし、実際事業所とか施設の方の中にそういう考えも持ったうえで働いている方がいる所って、すごく興味があるので、そういう情報も、さっきお話をうかがっていて、私はお話したいなと思っていたのでありがたいなと思います。

22 は、これは驚いたことで、事業やってみたはいいけど該当する家庭がなかったというのが、これ、やらないとわからなかったんだろうかというのが、ちょっとびっくりで、ひとり親家庭の支援は必要だと私は思うんですけど、ニーズの把握がそれよりも前に必要だと思うんで、引き続きやっていただきたいなと。要検討であると書いてあるんですけど、現実にはどこかにいっぱいあると思うので、と思いました。

25 については、先ほど突飛なアイデアとか、そういうのを挑戦できるものがあつたら、というお話があつたんですけど、私とかまわりの友達とかからすると、この元気出す地域活力支援事業が一番使いやすい事業で、女性とか若者とか区切りが大雑把というか、そこにさえいけばこの事業ができるので、私の友達だったら、この福知山で全然ないなってその子が言っているんですけど、アートっていう分野で事業を起こしたり、それを起こしたことによって市役所の方々と繋がりができていろんな話ができるようになったと言っていたので、地域の一般市民の方のファーストコンタクト、最初に出会う場としての事業としても機能するんじゃないかなと思います。周知は皆さん言われているとおり、知らない人が多いので、何かやりたいと思った時に手を出しやすいのがこの事業かなと思っています。

27 の防災マップは、私は福知山市の北のほうの、ここから 30 分くらいの山の中に住んでいて、雲原という地域なんですけど、そこでも防災マップづくりしました、実際。その区の方にも見せていただいて、私の家は大丈夫だけど、私の下のお家は崩れそう、みたいな、すごくリアルな地域のマップが見られたこと自体が、「注意せなあかんのや」という意識になったので、あれはよかったなと思います。一方で、全然そのマップが可愛くなかったの、家に飾っておいてもいいようなデザインになるとありがたいなと思いました。

最後は、公立大学ですね。公立大学できて、4 月始ってから何人かの先生方と学生さん 10 名くらいが雲原に学習に来てくれているんですけど、その中で面白いなと思ったのが、社会人学生の存在が面白くって、福知山にずっと住んでいたけど学びたいって言って、60 代の方が社会人学生で入っておられたりするんですね。その方が私みたいな、山奥に住んでいるよくわからない女みたいな人にもしゃべってくれて、「すごい、知らない世界を見ました」といろいろ言っておられるのが面白くって、大人も学生もそうですけど、大人が視野が広くないと育つものも育たないので、大学を学生だけのものじゃなくて地域全体の学

びの拠点として、本当に活かして欲しいと思っています。なのでこれは、超期待をこめてのありにしています。重点的にやってもらえたらなと思います。他は通じるというか、ぱっと見てわかったのはそれぐらいだったので、他のことについてはもうちょっとそれを実際にやっている人の話を聞けるといいですね。でも難しいかなとも思うので、資料をもうちょっと読みやすいかんじにしてもらえると。読んでわかるような資料を作ってね、というふうに担当者の方に言ったら、やっている方なのでわかるし、書けると思うので……。様式バラバラでもいいじゃんと思ってしまうので、読みやすい資料にさせていただけると助かります。すみません、長くなりましたけど、以上です。

<司会>

ありがとうございました。次、高岡様、よろしくお願いします。

<高岡委員>

消防のほうで参加させていただいています高岡です。ちょっと難しいこととか他の事は私、あんまりよくわからないので、消防のほうが言わせてもらっている救命の絆というところで、「応急手当普及員」や「市民応急手当普及員」を、今、消防署は全市民に持ってもらうというような計画なんですけど、その中で、先日も市民体育館で倒れられた方が、そこに居合わせた方の応急処置で、救急車が来るまで心肺蘇生をされて、救急車が来て運んでもらって、一時入院はされていたらしいんですけど、障害も残らず社会復帰されたということを知りました。やっぱり、運動・スポーツとかされている中で、何が起きるかわからないので、福知山でスポーツなりイベントに参加していても、何が起きてても命は助けてもらえるみたいな市であれば、安心して他の市外からでも遊びとかスポーツに来ていただけるんじゃないかなと思っています。あと、先日、各地域で夏休み前に小学校のPTAを対象に救急講習をどの地域もされていると思うんですが、うちも先日、小学校のほうへ救急講習へ行ってきました。その中で、他の小学校はわからないですが、うちの地域のところは小学校とプールが離れているので、他のところは小学校の敷地内にプールがあるのかわかりませんが、その救急講習の中で先生が、「プールにはAEDは置いてない」と。もしプールで子どもが倒れたりとか保護者も監視に来ているので、そこで倒れた場合、AEDが無かったらどうするの？て。まさか学校から持って行くわけでもないし、プールを使用するのは、多分、年の2・3ヶ月だけなので、設置されていないのか、ちょっとそこらへんはわからないですが、私としてはビックリしたんです。そういうところにAEDが置いてないというのは、学校や商業施設・大きな施設には、今ほぼ完備されているんですが、子どもが使うような施設であるプールは置いていただきたいかなと、私は思いました。短いですが以上です。

<司会>

ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。はい、どうぞ。

<高橋委員>

私は28年度の事業について質問しなかったですが、今年度の当初予算は骨格予算であったと思います。今後新しい市長がいろいろ施策を打ち出されると思います。我々委員の意見で作りに上げた総合戦略をどう展開されるのか大いに期待したい。

また、総合戦略に掲げている農林水産業の振興の数値目標などは、27年度の結果も出てくることと思いますし、いろんな事業についてもその結果をお示ししていただき、福知山市のがんばりを皆さんに知っていただき、今後の方向性などを共有させていただければ、我々も元気になれるのかなと思います。これは要望として。

<副市長>

ありがとうございました。いろんな視点からの貴重な意見を参考にさせていただきたいと思います。先ほどの高橋委員の二つについてですが、まず、大橋市長の地方創生への取り組みについてですが、冒頭あいさつにも述べましたように、基本的に方向性が異なるものではありません。皆さんからもご意見のあったシティプロモーションなんかについては、大橋市長はしっかりやっていたらなければならないとの認識でもありますし、そういう意味では総合戦略に掲げた各種事業について進化なりバージョンアップなりを大橋市長と協議をしながら図らなければなりません。また項目が増えることもあるかもしれませんが、より良く、福知山らしい戦略となるよう努力したいと思います。

資料の作りも役所的なところがあり、わかりにくく申し訳ないと思います。市民や専門分野外の方にもわかるような資料にしなければならないと思います。また全体としては、評価についても数値の達成だけでなく、そこに至る過程についても検証しなければならないと思いますし、評価の見える化を行っていきたいと思います。ありがとうございました。

<司会>

それでは、いただいた意見をまとめまして文書で報告させていただきます。本日の評価についてご記入いただいておりますら、用紙を提出いただきますよう、よろしくお願ひします。

本日は、お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。